

令和３年度 第２回小牧市夢にチャレンジ審査委員会
議事要旨

《日 時》	令和３年１０月５日（火）午前１０時３０分～１２時００分
《場 所》	小牧市役所 ２０２会議室
《議 題》	令和３年度第３回助成金募集について 令和３年度小牧市夢にチャレンジ発表会募集について 令和３年度小牧市夢にチャレンジ発表会審査方法・審査基準について（非公開）
《出席者》	委 員：多川委員、河内委員、林委員、鍛冶屋委員、伊藤委員 事務局：櫻井こども未来部次長、若林青少年育成係長、若林
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

１ あいさつ

〔委員長〕 本日はお忙しいところ、皆さんありがとうございます。第２回の会議ということで、本日は新しい取り組みについての具体的などころを議論していただくことになろうかと思います。今コロナが少し落ちついてきているものの、当然まだまだ見通し、先行き不透明というところがありまして、子どもたちにとっては制限された日々がずっと続いていくと、しばらくはそれが十分予想されると思います。そのような中でも子どもたちや生徒さんや学生が自分の将来の目標を見つけて、それに向けてやっていける、そのきっかけとか後押しになるような事業になればいいなというふうに思いますので、新しい取り組みや、それから、新しく年度の前に始めるという夢にチャレンジの企画、そのようになっていけばいいなと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

２ 議題

（１）令和３年度第３回助成金募集について

○事務局より、資料１に基づき説明。

〔多川委員長〕 ただいまの説明についてご質問、ご意見等ありますでしょうか。

（質問、意見等なし）

〔多川委員長〕 では、この募集要項にて令和３年度第３回助成金募集実施するこ

ととしてよろしいでしょうか。

(全員賛成)

(2) 令和3年度小牧市夢にチャレンジ発表会募集について

○事務局より、資料2～資料3－5に基づき説明。

〔多川委員長〕ただいまの説明について、ご質問、ご意見よろしく申し上げます。

〔林 委 員〕以前からこの企画がでるときに、いろいろ話をしていたのですが、夢を語ってくださいと言うだけの広報にすると、その時に思い描いている、あるいは、思い付きの夢をただ発表するだけの企画になってしまう可能性がありますけど、やっぱり趣旨が最初に書いてあるように将来チャレンジ助成金に繋がっていくというところのためにこれを企画した訳なので、どうやってこの子たちがそのチャレンジ企画に、年齢が上がるまで時間がありますけど、繋がっていくのか、その間を表に出すか出さないは別にして、この企画としては考えておかないといけないということを思いました。子どもたちへのチラシにもやっぱり同じことが書いてある訳で、将来助成金を利用してチャレンジに繋がる契機ということは、ここで発表するだけではなくて、その夢を追いつけて数年後にはチャレンジ助成金を使って、本当に実現するような取り組みを提案してもらいたいというのは、是非子どもたちに伝わるというのと読んでいて思いました。あと、チラシの裏で具体的な夢を語ってありますが、その中で、右下に書いてある「ヘアドネーションを広めたい。」とか「ジェンダーフリーの世界にしたい。」というのは、これを実現しようと思うと、個人ではなかなか出来ないということがあります。だから、これをただ語って終わらせるというふうにするか、本当にこの子たちの夢を応援したいと思うなら、こういう夢を実現するための手立てを前に言ったようにサポートしたりとか、アドバイスしたりとか、そういう部分も今後必要となってくるのではないかとということを読んでいて思いました。

〔多川委員長〕何かその点について、想定されていることとかありますでしょうか。

〔事務局〕少し新しい制度というか、そういったものは、やはり必要だとは思っていますので、今後、制度設計する必要があると考えています。

〔多川委員長〕 本当に元々の趣旨が、やっぱり助成金の応募者を増やしたいというところにありますので、いい形で子どもたちの夢が実現する方向になるようなアドバイスになるような全体の取り組みになっていけばいいと思います。終わった後も助成金に応募して目標に繋げていく、そこに繋がってくれる取り組みをしていただければいいと思います。

〔河内委員〕 事前説明会の中で、個別の相談とかを指導対応していかれるということでおっしゃっていましたが、これは具体的に市役所に来てもらうということですか。学校に出向かれてしますか。具体的なことはまだ固まっていないでしょうか。

〔事務局〕 事前説明会を2月6日の日曜日に発表者の方、皆さんに来ていただきまして、その日から発表会の当日までは、個別に相談などが生徒の方からありましたら、市役所に来ていただき個別に対応させていただくものと考えております。

〔河内委員〕 基本的には中学生の子どもたちに来ていただく。

〔事務局〕 来ていただこうと思っています。

〔河内委員〕 わかりました。少し思うところがあって、先ほどの林委員の話にも繋がりますが、まずは間口を広げなくてはいけないということもあってこれだと思いますが、そういうところからいくと、来てください、来なかったらいいよ、というスタンスだと、多分、誰も何も言ってこない。こっちから出向きますよ、例えば図書館であつたり、学校は敷居が高いから、子どもたちも多分、市役所においでと言うと敷居が高いし、親も一緒に来ないといけない、図書館も一緒ですけど、僕はどちらかというと間口を広げる。それも頭の中にないと、あまりガチガチにしてしまうと裾野が広がらないとなんともならない、そんなことを思います。

〔事務局〕 また、事務局の方でも相談したいと思います。

〔鍛冶屋委員〕 少し事務方の方で話をする中で、迷っていることがありまして、もしご意見があればと思います。記念品が今、予算上は1人参加者5名の方に1万円ということでこれを予算化した趣旨というの

は、できるだけ子どもにとって適正な範囲の高額であれば応募が来るかということを考えて、こういう予算化をしているのですが、一方、今回は優劣をつけるものではないということで、できるだけ多くの子どもたちにも参加をしていただきたいと思うと参加賞的なものがあつた方がいいのかということもこの制度を考える中で議論していきまして、一つは選ばれた子に1万円ずつ5万円というのと、もう一つは選ばれた5人には5千円にしまして、例えば1千円であると25人に参加者の中から抽選で参加賞を差し上げます。ということにした方が、参加したいという意欲にも繋がりますし、そもそも優劣をつけるものではないというところからすると、それがいいかという気がする、一方、どれぐらいの方が来るかわからないものですから、もしご意見があればお聞きしたいと思ひまして、少しお話をさせていただきました。

〔多川委員長〕図書カード、記念品の金額と参加賞についてですけども、何かご意見ありますでしょうか。

〔林 委 員〕難しいですね、優劣をつけないと言いながら絞り込むのですから、矛盾はどうしたらいいだろう、1年生の考えることと3年生の考えることに、それは、差はあるだろうし、どうするのかというのは、正直なところです。

〔河内委員〕学校側でする負担が色んなことでどっちにしても増えるだろうから、どこをどういうふうにするかで大分違いますね、鍛冶屋委員がおっしゃったように広く優劣をつけないというのはありだと僕は思います。僕は、どっちかというところそっちの方がいいなと。実は、抵抗ありましたけど、図書カード、まあ決めたことなのかなと思って言いませんでしたけど、多分、私が思うにそれをやってしまうとまたまた間口が狭くなって、夢チャレに対して、これを見た時に思ったのは、色んな人に周知をしていただくことの方が大事だと最初から思っているの、子どもを産む前の親世代、子どもを産む人くらいから、こんなことありますよ、大人になったらこんな事ありますよ、そんな事も含めて広い方がいいのではないかと、最後、挑戦していただく方は、そうなるかもしれないですけど、そこまでは広い方が、たくさんの方が可能性を持ってみえるのではないかと、あまり難しくしない方がいいかと思ひます。

〔多川委員長〕参加賞が出来ると更に優劣をつける感じが出ますか、それとも5

千円にして参加賞を抽選でとした方がそういったのが薄くなりますか。どうでしょうか。本当に今の提案だけだと、やっぱり選ばれた5人が1万円という感じになっていますので、それよりは参加賞があるとちょっと参加してほしいという、こちらの意図も伝わるかと2つを比較すると、まずは、とは思いますが、金額が下がること自体は、私は個人的にはあまり、中学生の応募には影響がない気がしますけど、そのために、多分、やる子はやらないかと金額のために、そのようながあるとやる気になりますね、そういう気はしますけど。

〔林 委 員〕 金額が大きいですね、1万円は来た人全員にという訳にはいかないでしょう。1千円、2千円くらいなら20人、30人来ても、応募者全員に参加賞を配るか、ただ25人来たから25人全員発表してもらう訳にも時間が厳しい、僕らは何を審査するのかと、優劣がつかないのだったら、この中で直接話を聞いてみたいと思うものを僕らで推薦する。その子を実際、生の声で聴いてみたいという感じになるのか、選抜というか、聴いてみたいなど。

〔多川委員長〕 そうすると年齢のことを加味しながら、1年生なりの夢の語り方で考えて語ってほしいというのを選んであげられるかもしれません。そうすると、基準の作り方が難しいですけど、明文化しておくことが必要であるとするのが難しい。林委員のお話だと1万円の図書カードもなしで参加賞だけを配るというご提案ですか。

〔林 委 員〕 なんらかの参加賞を渡す、参加者にはあげてもいいのではないかと、先程の話で間口を広げる、あまり高額で設定してしまうとそこは予算面で出来なくなるので、ただこの発表者、僕らが推薦した子たちは、参加賞以外は何もなしですとするのか、その子たちに特別にプラスアルファで付けるかという気がします。

〔伊藤委員〕 確かに先ほど河内委員がおっしゃったように間口を狭めてしまったら、何のためにこれを考えたのだろうということになると思います。1万円の図書カード、金額で釣っているように聞こえたら申し訳ないですが、1万円の図書カードがもらえるから頑張ろうと言っても所詮5人で、自信満々で5人になれるという手を挙げる考え方もあれば、参加賞はとりあえずあるし、良ければ1万円もらえるぐらいで、やっぱり物で釣っているというふうになってしまうかもしれませんが、確かに応募してもらって、5人が5

人選んで差し上げればいいのですが、今の考え方だと6人応募があった時の1人はだめだという時で、その子に何もなくなる。やはり予算があるので、今、変えることが難しいのであれば、トライしてくれた事に対してのケアとして参加賞が出来れば、この書類を作るのは大変ですが、中学生なりに申込書を作って、このチャレンジシートを作るというのは、考えて一生懸命やるでしょうから。個人的には1万円は、すごく高額だと思います。

〔河内委員〕 ですよ、僕もそれは思います。

〔伊藤委員〕 チャレンジすることに意味があるということを市は言っているような気がするので、チャレンジしたことに参加賞というのはありかと思います。

〔多川委員長〕 参加賞を設けるということについては、どうでしょうか。いいのではないのでしょうか。どうでしょうか。

〔河内委員〕 僕は申し訳ないですけど、図書カードで1万円よりは、そちらの方がいいと思います。ストレスないのではないかとあって、誰が聞いても、夢チャレの30万円とは意味が違うと思うので、全然基準が違うと思うので、今回のこの夢にチャレンジ発表会もそもそもある夢チャレとは全く違うものと思うので、基準が違うと思うので、多分、林委員が先ほど言われたと思いますが、審査のどこに基準を置くのだらうと、まさしくと思います。別に選ぶ必要ないという気がします。ただ便宜上、参加してもらうには何かしらそういうものを決めないといけないので、そうなるだけであって、ただ決定したものが、夢チャレの趣旨とは違うものですね、お金に関しては。夢チャレを僕の場合は知っていただくために中学生の方に、僕は最初からそういうつもりで見ていて思いますけど、知ってほしいと思いますので、チャレンジする前からずっと知ってほしいと、気持ちの中にずっとあり続けて、やってみようかと、何か出た時に、だから続いていかななくてもいいような、極論ですけどあります。どっちかという僕は知ってもらうためのこれはチャレンジではないかと子どもたちのきっかけになればいいのではないかという感じです。

〔多川委員長〕 参加賞は、図書カードを想定しているのでしょうか。

〔伊藤委員〕それは、予算的にどうでしょう。

〔鍛冶屋委員〕今、予算は全部で5万円。当初の予算の要求が1万円賞品券を5人に、その枠内でなければいけません。選ばれた5人を1万円ではなくて5千円にして、残り2万5千円を千円で、もし仮にたくさん来れば25人の方に抽選でということになってしまうんですが、一つの案としてはそういうことかと思います。

〔伊藤委員〕抽選というと結構難しいですね。

〔事務局〕その他は500円にして50人分、募集が来ないと。

〔河内委員〕どれぐらいの数が来るのかわからないところがある。

〔多川委員長〕それも図書券で500円、物ではなく。

〔鍛冶屋委員〕そうですね、予算上、物では使いにくい、そういったものに縛られているのですが、図書券とか商品券とか、そういった物で。

〔伊藤委員〕他のものでも、中学生が募集したものだとか図書カードで配っていることがほとんどだと思います。

〔河内委員〕図書カードは、結構使っています、意外ですけど。図書カードはいいかと思います。

〔多川委員長〕そうしますと、参加賞の金額は応募者の数によって多少変える。

〔鍛冶屋委員〕全員にお配りしようと思うと、そうですね。

〔多川委員長〕どうでしょうか。一応、当初の発表者の5人に対しては、図書カードの金額を5千円にして、残りの予算で参加賞として配布するということについてよろしいでしょうか。1万円だけを渡すよりは良さそうな皆さんの意見を聞いていてもそんな感じがしますので、どうでしょうか。いいでしょうか。

〔鍛冶屋委員〕すみません。自分から問題提起をしておいて、会のご意見としてはそういう案も出たということで、内部で上まで相談したいと思っています。もしかすると、この原案どおりになるかもしれませんが、

また委員長と相談させていただくということで、よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

〔多川委員長〕では、その他ありますでしょうか。

〔河内委員〕シートですけど、これはタブレットが使えないですね、この書き込みシート、タブレットを使ってはできないですね、学校で。活用できないかと思って、そうすると参加する人が増えるかと思って。

〔林 委 員〕全中学生のタブレットですか。

〔河内委員〕そこら辺の問題が出てきますが、どこまでをどういうふうにしてこの夢チャレが学校と上手く絡んでいるかと思うのですが、ただ対象が中学生であれば当然、中学校にも周知するし、昨日も別件で学校訪問に行って来ましたけど、やっぱりタブレット結構使っているの、体育の授業で使っていたり、動画撮ってホーム確認したり、色んな使い方をしています。びっくりしましたが、これなんかまさしくそういうことで、参加する人が増えないか、見る方は大変でしょうけど、ただ学校がということにはなりますが。

〔林 委 員〕学習用タブレットとしてもらっているものに、応募が全員配布となると多分、他の課の企画もそれをやるようになる、全員に周知させるためにタブレットに送信してください。それが例えば市から直接、子どもたちの個人のタブレットに行くのならいいけど、学校経由で行きますから、そうすると、やっぱり学校が関与した企画に全部なってしまいますね、中には図書券もらえるなら全員に書いてみたらとか、そういう指導に変わっていつてしまうこともあるので、確かに便利とは思いますが、僕はそれこそ、このチラシの中にQRコードが付いているから、子どもたちが自分たちで、自宅のネットでも申込みができるというふうにした方が、まだ、学校経由ではなくて、個人でネットでの申し込みができる方が、より現実的かと思います。

〔多川委員長〕今のご意見はタブレットに配信してはどうかということですね。

〔河内委員〕仕組みがわからないので、よくわかってないところもありますが、

小牧は早いです、全国的に見ても数字がかなり上です、だから上手く使えないのかと、アイデアではないですけど、具体的に林委員から教えていただいて無理だとわかりましたけど、せっかくあるので行政も含めて上手くできたらいいなとLINEも含めて、LINEは今回ワクチンで、すごく効果が出ていると思うので、そういうものが繋がるといいと思います。

〔伊藤委員〕お二人の委員がおっしゃったのは、それぞれとてもよくわかって、確かにそういうところに流させていただくと、とりあえず市内の中学生の子には届くのですが、今回対象にしているのは、私立の中学生も全部入っていく、市内在住の中学生全員対象としますので、情報の出し方として、今後そういう活用の仕方をしていけたらいいなというところで、ご意見を受け止めるといいのかと。こども政策課の事業ですと実は児童クラブの関係がありまして、そんな中で学校にタブレットがあるからそれを使って学習とは違う使い方をいろんなアイデアが出つつあるところです。そこを今は学校の授業として使っているというところで線を引かせていただいているので、これから将来的には行政全体とか児童生徒に関わることがそういうものを使ってということになるかもしれませんが、多分、行政がそのルールに追いつけてないので、今回はいったん切り離させていただいた方がいいのかと思います。

〔多川委員長〕質問させてもらっていいですか。応募は、元々は手書きの書類で応募ということですか。

〔事務局〕手書きでもデータをダウンロードして打ち込んでいただいて、出させていただいても大丈夫です。

〔多川委員長〕でも印刷したものを提出ですか。

〔事務局〕メールも大丈夫です。

〔多川委員長〕その他ありますでしょうか。議題（２）に関しては、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

3 その他

（１）今後の予定

今後の予定について、下記のとおり予定する。開催時間は応募件数によるた

め未定。

令和４年１月２８日（金）発表会書類審査

令和４年２月２０（日）助成金の公開プレゼンテーション、発表会、審査委員会

（以下非公開にて実施）

２ 議題

（３）令和３年度小牧市夢にチャレンジ発表会審査方法・審査基準について

審査基準に関する議事のため非公開